

日常診療 お役立ち BOX

—産科／婦人科編

性感染症検査と治療

習得難易度 ★★☆☆

監修

井上真智子

(浜松医科大学地域家庭医療学講座特任教授)

柴田綾子

(淀川キリスト教病院産婦人科医長)

執筆



谷崎隆太郎

(市立伊勢総合病院内科・総合診療科副部長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

1. 性感染症診療の特徴 p2
2. 性感染症の検査 p6
3. 性感染症の治療 p17
4. 治療後のフォローアップ p20
5. おわりに p22

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

1. 性感染症診療の特徴

1 1 まず性感染症を想起できるかどうか

地域医療における臨床現場では、性感染症自体の頻度はそう高くない。しかし、性感染症は未治療のままでは患者本人に合併症や不妊症のリスク、妊婦に感染した場合の胎児への重篤な影響、パートナーを介したさらなる感染拡大という公衆衛生的な問題などが生じうるため、診断・治療のタイミングを逃さないようにしたい。

性感染症の患者は主に性器の症状を訴える場合が多く、性感染症を想起しやすいが、疾患によっては発熱や咽頭痛、下痢などコモンな主訴で内科外来を受診するものも多い(図1)¹⁾。中でも、急性ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus : HIV)感染症と梅毒は全身のあらゆる臓器症状を呈することがあるため、どのような主訴であっても鑑別診断の隅に入れておく必要がある。

図1 性器外症状の主訴から見る各性感染症

疾患名	発熱	咽頭痛	リンパ節腫大	皮疹	口腔内潰瘍	関節痛	下痢
急性 HIV 感染症	○	○	○	○	○	○	○
梅毒	△	○	○	○	○	△	○
淋菌感染症	△	○	×	△	×	△	○
性器クラミジア感染症	△	○	○	×	×	×	○
ヘルペスウイルス感染症	△	○	○	×	○	×	○
B 型肝炎	○	×	×	△	×	△	×

○：よくある主訴，△：主訴になりうる，×：ほとんどない

(文献1より作成)

一方で、プライマリ・ケアの現場では、咽頭痛ならば大抵はウイルス性咽頭炎であり、下痢であればウイルス性腸炎である。患者がコマーシャルセックスワーカーなど、性感染症のリスクが高い職業に従事している場合には性感染症を想起しやすいが、そうでなければ事前に想起しにくいかも

しれない。かと言って、性感染症を心配するあまり、性交渉が可能なすべての人に対して、毎回性交渉歴を聴取するのは非効率で現実的ではない。よって実際には、コモンな主訴で受診したが「症状が長期間続いている場合」や、コモンな原因を想定して診療したが「症状の原因が不明である場合」「治療後になかなか治らない場合」などに性交渉歴を追加することを提案したい。

2 性交渉歴の聴取の仕方

性交渉歴はきわめてプライベートな内容であるため、正確に聴取するためには多少の準備とテクニックを要する。

まず、聴取する以前にプライバシーの保たれた部屋を準備し、付き添いの家族などは別にして本人のみから聴取できる環境を整える。患者が未成年であっても、保護者に聞かれないよう、本人だけに対して聴取すべきである。当然ながら、本人ではなく保護者に尋ねても正確な答えが返ってくる可能性はきわめて低いと予想される。

具体的に性交渉歴を聴取する内容については、5P (Partners, Practice, Prevention of pregnancy, Protection from STI, Past history of STI) という考え方が提唱されており、聴取すべき内容についてある程度参考になる(表1)²⁾。中でも、パートナーの性別や性交の内容などは鑑別疾患に大いに寄与する。たとえば、肛門性交の有無を聴取できなければ、淋菌感染症や梅毒などで起こる直腸炎や、ヒトパピローマウイルス感染症によって起こる肛門の尖圭コンジローマなどを診断することは困難である。

表1 性交渉歴聴取の際の5P

Partners	性交渉の相手の性別, 人数, あなたのパートナーは他にも性交渉相手がいたか? など
Practice	コンドーム装着の頻度, オーラルセックス・アナルセックスの有無
Prevention of pregnancy	どのような避妊手段を取っているか?
Protection from STI	性感染症から自分を守るためにどのような方法を取っているか? (コンドーム, ワクチンなど)
Past history of STI	自身とパートナーのSTIの既往, 静注薬物の使用歴, 金銭や薬物をセックスの対価としたことがあるか

STI: sexually transmitted infection (性行為感染症)

(文献2より作成)

具体的な聴取例を表2に示す。

表2 具体的な性交渉歴の聴き方の例

具体的な聴き方の例	
性交渉歴を聴く前に	「これは基本的に他の患者さんにもお聞きしているのですが」 「プライベートな内容ですが診断のために必要な情報なのでお聞きしますが」 「●●さんの症状は内科の病気で起こることもありますが, 実は性行為に関連した感染症でも起こることがあるんです。なのでお聞きしたいのですが」
性交渉歴を聴く流れになったら	「性感染症にかかる可能性のある性行為は(3カ月以内くらいに)ありましたか?」 →まずは当たり障りのない質問で相手の反応を見る。 「性交渉の相手は男性ですか? 女性ですか? 両方ですか?」 →淡々とズバツと聴くのがポイント。 「今までに性感染症にかかったことはありますか?」 →あれば, 今回も性感染症による症状である可能性が高まる。 「コンドームを使わない性交渉では感染のリスクは増えるわけですが, コンドームは使用していましたか? 普段使用していますか?」 「性交渉の相手が多ければそれだけ感染のリスクは増えるわけですが, 複数のパートナーがいますか?」 「あなたのパートナーはあなた以外の人もセックスしますか?」 「実はオーラルセックス(or口を使ったセックス)によって口の中やのどに病変を作ることがあるのでお聞きするのですが, そのようなセックスはありましたか?」 「実はアナルセックス(or直腸を使ったセックス)によって肛門や直腸に病変を作ることがあるのでお聞きするのですが, そのようなセックスはありましたか?」

実際に聴取する前には「性交渉歴を聴取する医学的な理由」の説明が必須である。口腔, 膣, 陰茎, 肛門など, それぞれがどこと接したのかによっ